

福岡県周辺の基地の動き 第4号

築城基地で「基地機能の抗堪性」が強化！

昨年12月17日閣議決定された新“防衛計画の大綱”の〔V. 防衛力のあり方 2. 自衛隊の態勢〕で、「自衛隊が動的防衛力として抑止・対処において有効に役割を果たせるよう、基地機能の抗堪性を確保するとともに、燃料、弾薬（訓練弾を含む）を確保し、維持整備に万全を期す」としている。築城基地では、すでに「基地機能の抗堪性」が強化され、厚いコンクリート製土盛式の変電設備・蓄電設備が完成し、弾薬庫も1基増設、7基の航空機燃料タンクも容量3倍化が進行中で、“防衛計画の大綱”の内容が先通りされ、強化されている。

変電設備・蓄電池設備

この施設の右側（北側）には自家発電設備（同じ構造）があり、外部電源が破壊されても基地機能を維持し、瞬時の停電に対応する蓄電池設備が設置され、攻撃を受けても基地が有効に機能する体制が強化されている。



ミサイル整備場入口



火気厳禁の標識の左に危険度〔1〕を表す看板を設置したミサイルの整備場入口

工事中の既設航空機燃料タンク群

7基ある燃料タンク群の容量アップ化が進行中で、すでに1基目は完成。現在2基目を工事中で、既設タンク容量を3倍化するといわれている。普天間飛行場の緊急（戦争）時の兵站施設の整備を行なうとした「米軍再編」は、4.1畝の農地買収ができず基地拡張を断念した後も施設整備は進められている。

